

立命館大学大学院
2021年度実施 入学試験
博士課程前期課程

文学研究科

人文学専攻・文化動態学専修

入試方式	実施月	コース	専門科目 ※英語による問題を含むことがある	
			ページ	備考
一般入学試験	9月	高度専門	P.1～	
	2月		×	
社会人入学試験	9月	高度専門		
	2月			
外国人留学試験	9月	高度専門	×	
	2月		×	
学内進学入学試験	9月	高度専門		
学内進学入学試験 (大学院進学プログラム履修生対象)	2月	高度専門		
APU特別受入入学試験	9月	高度専門		

[表紙の見方]

×・・・入学試験の実施がなかった等の理由で入学試験問題の作成がなかったもの、または、問題を公開しないもの
斜線・・・学科試験(筆記試験)を実施しないもの

※試験終了後、ホッチキスで綴じること(太線の4箇所)

2022年度 立命館大学大学院文学研究科入学試験問題

2021年9月11日

博士課程前期課程 人文学専攻
文化動態学専修

「専門科目」

全 5 ページ

●受験上の注意

- ① 試験中、冊子をばらしても構わないが、終了後再び綴じて提出すること
(ホッチキスを貸与します)
- ② 全ての用紙に受験番号、氏名等を記入し、提出すること

●試験中の持込許可物件について

- ① 筆記用具、受験票、時計以外の持込は認めない



文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏 名
人文学専攻 (文化動態学専修)	前期課程	専門科目	☐ 研究一貫 ☐ 高度専門		

Ⅰ. 次の文章（翻訳文で一部を原文（英語）のままとしている）を読み、設問（1～6）に日本語で回答しなさい。

ピクサー・アニメーション・スタジオとウォルト・ディズニー・ピクチャーズは 2015 年、人間の境遇についての〔引用者注：映画『マトリックス』『トゥルーマン・ショー』よりも〕はるかに現実的で不穏な長篇アニメーション『インサイド・ヘッド』を発表した。この映画はたちまち、大人と子供の区別なく大好評を博した。『インサイド・ヘッド』の中で、ライリー・アンダーソンという 11 歳の少女が両親とともにミネソタ州からサンフランシスコへ引っ越す。彼女は友人たちや生まれ故郷が忘れられず、新しい生活に馴染めなかったため、家出をしてミネソタに戻ろうとする。ところがライリーの知らないところで、はるかに大規模なドラマが展開していた。ライリーは、本人が知らないうちにテレビのリアリティ番組のスターになっていたわけではないし、マトリックスの中に閉じ込められていたわけでもない。そうではなく、ライリー自身がマトリックスであり、彼女の中に何かが閉じ込められていたのだ。

ディズニーは、一つの神話を何度となく語ることでエンターテインメントの一大帝国を築き上げた。ディズニーの無数の映画の中で、主人公は困難や危険に直面するが、結局は正真正銘の自己を見つけ、自分の自由な選択に従って勝利する。ところが『インサイド・ヘッド』は、①この神話を情け容赦なく打ち壊す。人間に関する神経生物学の最新の見解を採用し、観客をライリーの脳の中への旅に連れ出す。ところが、何とライリーは正真正銘の自己を持っておらず、自由な選択など一つもしていないことが判明する。実はライリーは、相容れない一群の生化学的メカニズムによって管理されている巨大なロボットだった。映画の中では、それらのメカニズムは可愛らしいアニメのキャラクターとして擬人化されている。黄色で陽気なヨロコビ（Joy）、青くて不機嫌なカナシミ（Sadness）、赤くて短気なイカリ（Anger）……という具合だ。これらのキャラクターは、巨大なテレビ画面でライリーの一挙一動を見守りながら、頭の中の司令部でボタンやレバーで操作し、ライリーの気分や決定や行動を全て制御している。

ライリーがサンフランシスコでの新生活に適応できなかったのは、司令部の手違いの結果であり、そのせいで、ライリーの脳は完全にバランスを失いかけていた。この状況を正すために、ヨロコビとカナシミはライリーの脳の中で遠大な旅をする羽目になり、「考えの列車」に乗ったり、記憶の保管所を調べたり、芸術的なニューロンのチームがせっせと夢を制作している内なるスタジオを訪れたりする。私たちは、擬人化されたこれらの生化学的メカニズムを追いながらライリーの脳の奥底へと入って行くが、魂にも、正真正銘の自己にも、自由意志にも決して出会うことはない。実際、映画の筋の要となる悟りの瞬間には、ライリーは正真正銘の単一の自己を発見したりしない。むしろ、ライリーはどんな単一の核とも同一視できず、彼女の幸福は多くの異なるメカニズムの相互作用にかかっていることが明らかになる。

（次頁に続く）

文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏 名
人文学専攻 (文化動態学専修)	前期課程	専門科目	☐ 研究一貫 ☐ 高度専門		

<②> At first, viewers are led to identify Riley with the lead character – the yellow cheerful Joy. Yet eventually it turns out that this was the critical mistake that threatened to ruin Riley’s life. By thinking that she alone is the authentic essence of Riley, Joy browbeats all the other inner characters, thereby disrupting the delicate equilibrium of Riley’s brain. Catharsis comes when Joy understands her mistake, and she – along with the viewers – realizes that Riley isn’t Joy, or Sadness, or any of the other characters. Riley is a complex story produced by the conflicts and collaborations of all the biochemical characters together.

真に驚くべきなのは、ディズニーがこれほど過激なメッセージを伝える映画を市場に出したことだけではなく、それが全世界でヒットしたことでもある。『インサイド・ヘッド』がここまで成功したのは、この映画がハッピーエンドのコメディであり、恐らくほとんどの観客が神経学的な意味合いと③その不気味な含みの両方を見落としたからだろう。

20 世紀の最も予言的な SF 書には、これは当てはまらない。読者はその不気味な性質を見逃しようがない。書かれたのは一世紀近く前だが、年を経る毎に現実味が増している。オルダス・ハクスリーが『すばらしい新世界』 *Brave New World* を書いたのは 1931 年で、共産主義とファシズムがロシアとイタリアに根を張り、ナチズムがドイツで台頭し、軍国主義の日本が中国での征服戦争に乗り出し、全世界が大恐慌に見舞われていた頃だ。それにもかかわらず、ハクスリーはこうした暗雲の一切を見透かし、戦争も飢饉も疫病もなく、途切れない平和と繁栄と健康を享受する未来社会を想像した。それは大量消費の世界であり、セックスも麻薬もロックンロールもやりたい放題で、最も大切なのは幸福だった。人間は生化学的なアルゴリズムであり、科学は人間のアルゴリズムをハッキングでき、それからテクノロジーを使えば操作できるというのが、この本の基盤を成す前提だ。

このすばらしい新世界では、世界政府が先進的なバイオテクノロジーとソーシャル・エンジニアリングを使い、誰もが常に満足し、誰一人反抗する理由を持たないようにしている。ライリーの脳の中のヨロコビやカナシミらのキャラクターが、忠実な政府職員になったかのようなものだ。したがって、秘密警察も、強制労働収容所も、ジョージ・オーウェルの『1984 年』 *Nineteen Eighty-Four* 風の愛情省も必要ない。実際、ハクスリーの非凡さは、恐れと暴力ではなく愛と快感を通しての方が、人をはるかに確実に制御できることを示した点にある。

When people read *Nineteen Eighty-Four*, it is clear that Orwell is describing a frightening nightmare world, and the only question left open is “How do we avoid reaching such a terrible state?” Reading *Brave New World* is a far more disconcerting and challenging experience, because you find it very difficult to identify what exactly makes it dystopian. The world is peaceful and prosperous, and everyone is supremely satisfied all the time.

④What could possibly be wrong with that?

（次頁に続く）

文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏 名
人文学専攻 (文化動態学専修)	前期課程	専門科目	☐ 研究一貫 ☐ 高度専門		

ハクスリーは小説のクライマックスで、この問題を直接取り上げる。西ヨーロッパ駐在の世界統制官ムスタファ・モンドと、野人ジョン（ニュー・メキシコの「先住民保存地区」で一生を過ごしてきた男で、ロンドンではムスタファ・モンド以外に、シェイクスピアや神について依然として何か知っている唯一の人物）との会話の場面だ。

野人ジョンがロンドンの人々を煽り立てて、彼らを支配しているシステムに反抗させようとする、その呼びかけに、人々は全くの無関心で応じるが、彼は警察に逮捕され、ムスタファ・モンドの前に連れて行かれる。この世界統制官はジョンと愉快地言葉を交わし、ジョンがどうしても反社会的でいたいなら、どこか人里離れた場所に引っ込み、世捨て人として生きればいいと説明する。その後ジョンは、国際秩序の根底にある見方に異議を申し立て、世界政府は幸福の追求のために、真実と美だけではなく、人生で気高く高潔なものも全て排除してしまったと非難する。

野人ジョンは無人の地に隠遁し、世捨て人として暮らす。彼は先住民保存地区で何年も暮らし、シェイクスピアと宗教で洗脳されていたため、現代的なものの恩恵を全て退ける習慣が身に付いていた。だが、そのような珍しい刺激的な人物の噂は忽ち広まり、人々が群がって彼を観察し、やることなすことを記録したので、彼はすぐに有名人になる。望みもしない注意をこれほど向けられて心底うんざりした野人は、文明化されたマトリックスから逃げ出す――〔引用者注：映画『マトリックス』のように〕赤いカプセルを呑み下してではなく、首を吊ることで。

『マトリックス』や『トゥルーマン・ショー』の制作者たちとは違い、ハクスリーは脱出の可能性はないのではないかと思っていた。なぜなら、脱出する人など存在するかどうか、疑っていたからだ。脳も「自己」もマトリックスの一部なので、マトリックスから逃げ出すには、自分自身から逃げ出さなければならない。とはいえ、⑤その可能性が本当にあるかどうかは探究に値する。自己の狭い定義を脱することが、21 世紀における必須のサバイバルスキルとなってもおかしくない。

* 出典

ユヴァル・ノア・ハラリ（著）柴田裕之（訳）『21 Lessons: 21世紀の人類のための21の思考』河出書房新社, 2019年, pp.324-331
(英語原文) Excerpt from 21 LESSONS FOR THE 21ST CENTURY by Yuval Noah Harari, pp.251-252, copyright © 2018 by Yuval Noah Harari. Used by permission of Spiegel & Grau, an imprint of Random House, a division of Penguin Random House LLC. All rights reserved.

但し適宜表現・表記を改めた箇所や省略した箇所がある。

文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏 名
人文学専攻 (文化動態学専修)	前期課程	専門科目	☐ 研究一貫 ☐ 高度専門		

【設問 1】 下線部①の内容を、それがなぜ「神話」と言えるのかを含めて分かり易く説明しなさい。(回答欄 5 行)

【設問 2】 英文パラグラフ<②>の内容を分かり易く説明しなさい。(回答欄 5 行)

【設問 3】 下線部③の内容を分かり易く説明しなさい。(回答欄 5 行)

【設問 4】 下線部④の問いに対するあなたの考えを、課題文中の説明をふまえて述べなさい。(回答欄 5 行)

文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏 名
人文学専攻 (文化動態学専修)	前期課程	専門科目	☐ 研究一貫 ☐ 高度専門		

【設問 5】 下線部⑤についてあなたの考えを述べなさい。（回答欄 5 行）

【設問 6】 課題文を読んであなたが特に注目した点について、自由に論じなさい。（回答欄 15 行）